

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般
試験科目	地域居住論		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の8個の用語から4個を選択し、その意味を説明しなさい。

回答の順番は問わないが、どの語を選択したのかが分かるように回答すること。

- (1) 伝統的建造物群保存地区
- (2) ナショナル・トラスト
- (3) 都市防火区画
- (4) 延焼遮断帯
- (5) コンパクトシティ
- (6) コミュニティバス
- (7) 市町村マスタープラン
- (8) 都市計画提案制度

【専門】

問題2 自身が大学院で取り組みたいと考えている研究テーマについて、①現在の都市計画・まちづくりにおける課題との関係からその意義を論じるとともに、②そこから得られる学術的知見の価値および③得られた知見の社会還元方法について説明しなさい。

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般選抜

科目名 地域居住論

解答例又は出題意図

問題 1

地域居住論が対象とする「まちづくり」領域は建築・都市・交通などを基礎とするが、そこで取り扱われる内容は空間デザイン手法、計画思想、調査計画技術、制度、歴史など多岐にわたる。出願者がこれらの広範な分野に関する基礎的な知識の有無の評価を意図し、参考図書から満遍なく関連用語を抽出したうえで、そこから選択した内容に関して説明を求めた。

- ① 伝統的建造物群保存地区（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 83）
- ② ナショナル・トラスト（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 83）
- ③ 都市防火区画（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 95）
- ④ 延焼遮断帯（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 95）
- ⑤ コンパクトシティ（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 109）
- ⑥ コミュニティバス（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 109）
- ⑦ 市町村マスタープラン（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 125）
- ⑧ 都市計画提案制度（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 125）

問題 2

大学院における研究の実施に当たり、出願者が①研究テーマに関連した地域課題に対する明確な問題意識と目的意識を有しているか、②研究テーマが持つ学術的意義を説明できるか、③研究から得られた知見の社会還元の方法を思考できるかの3点を評価することを意図した。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	言語障害支援論		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の(1)～(3)の障害の特徴や用語について200字程度で説明して下さい。

(1) 発達障害

(2) 口蓋裂

(3) インクルーシブ教育

問題2 吃音の言語面の問題(吃音の言語症状)と心理面の問題の種類や特徴について説明して下さい。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(2枚のうち 2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	言語障害支援論		

【専門】

問題3 国際生活機能分類では、「健康状態」、「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」、「環境因子」、「個人因子」の各要素から構成される「生活機能モデル」(下図)を掲げています。言語・コミュニケーション障害がある人には、「生活機能モデル」の各要素に、どのような働きかけ(治療、教育、指導、支援、配慮など)をすればよいか、あなたの考えを述べて下さい。

障害者福祉研究会編(2002) ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—。中央法規。17ページ。図1。より引用。

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 言語障害支援論 記載者氏名 小林宏明、吉村優子

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題 1 言語発達や言語障害に関連する基本的事項について理解を問う（3問）。具体的には、以下にそれぞれ挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

（1）発達障害

- ・ 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如多動症（ADHD）などを含む総称であること。
- ・ 生まれつきの脳機能の発達の不具合によって起こると言われていること。
- ・ 言葉の遅れや他者とのコミュニケーションの困難、注意や行動のコントロール、学習などに困難が生じること。
- ・ アセスメントの方法として、本人に対する発達検査や知能検査、特性に関する質問紙や行動の観察などがあり、多角的に実態を把握することが必要であること。
- ・ 特性と環境の不適合から受ける過剰なストレスやトラウマにより、身体症状や精神症状などの二次的な問題を生じることがあること。
- ・ 個別の発達段階や教育的ニーズに応じて指導や支援を工夫する必要があること。
- ・ 環境調整や保護者への支援も視野に入れ、多職種連携による支援が必要であること。

（2）口蓋裂

- ・ 胎生期の組織欠損または癒合不全により、先天的に口蓋に裂（割れ目）が見られること。
- ・ 口唇裂や顎裂を合併することがあること。
- ・ 哺乳や咀嚼・嚥下、言語発達（構音）、歯列、あごや顔面の発育に影響する場合があること。
- ・ 滲出性中耳炎にかかりやすいこと。
- ・ 出生時からの小児科、形成外科、耳鼻咽喉科、歯科などの多様な職種によるチーム医療が重要であること。
- ・ 適切な治療を行うことにより、通常の社会生活を送ることが可能であること。
- ・ 状態により不明瞭な発音から生じる問題への対応、からかい・いじめへの対応、自己肯定感の育成、他の子どもへの説明など心理面への対応が必要であること。

（3）インクルーシブ教育

- ・ 人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的で行われること。
- ・ 障害のある人と障害のない人が共に学ぶ仕組みであること。

- ・ 障害のある人が、一般的な教育制度から排除されないこと。
- ・ 自己の生活する地域において、初等中等教育の機会が与えられること。
- ・ 個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが必要であること。

問題2 吃音の言語面の問題（吃音の言語症状）と心理面の問題に関する理解を問う。具体的には、以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

- ・ 吃音の言語面の問題（吃音の言語症状）には、語音の繰り返し（連発）、引き伸ばし（伸発）、阻止（つまり、ブロック、難発）があること。
- ・ 吃音の言語症状の進展に伴い、発声発語器官や体全体の緊張が高まり、力の入らない楽な繰り返しや引き伸ばしから、力の入った苦しい阻止へと変化すること。
- ・ 吃音の言語症状の進展に伴い随伴運動（吃音の言語症状に随伴して、顔を歪める、手や足を動かすなど発話に関係ない運動が生じる）が出現する場合があること。
- ・ 吃音の心理面の問題には、発話に対する不全感や Loss of Control の感覚、吃音の話し方への羞恥心や罪悪感、予期不安、吃音になりそうな音や語、場面の回避、劣等感や自己効力感の低下などがあること。
- ・ 心理面の問題が大きくなると、不登校や引きこもりなどの問題に発展する場合があること。
- ・ 吃音への無理解やからかいが、吃音の心理面の問題を増悪させる大きな要因になること。

【専門】

問題3 現在、教育・医療・福祉の各領域で広く利用されている国際生活機能分類についての理解や考えを問う。以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

- ・ 心身機能・身体機能への働きかけでは、障害のある心身機能や身体構造の回復・改善、あるいは、相対的に高い機能・構造による代償などを目指した治療・指導・支援を行う（例えば、吃音の言語症状の改善を目指したスピーチセラピー、視覚的情報で聴覚的情報の不足を補うなど）。
- ・ 活動への働きかけでは、生活・学習・仕事における基礎的技術の向上などを目指した治療・指導・支援を行う（例えば、机上学習のスキルを向上させるための指導や、音読指導、読み書きの指導など）。
- ・ 参加への働きかけでは、心身機能・身体構造や活動の制約があっても、学校生活・授業に円滑に参加できるような配慮や支援を行う（例えば、吃音や読み書き障害で音読が苦手な児童生徒に配慮して音読を複数人数での斉読で行う、言語理解や注意の問題のため一斉指示では理解できない人に配慮して指示内容を板書やプリントでも示すなど）。
- ・ 環境因子への働きかけでは、障害のある児童生徒への誤解や偏見をなくするための取り組みをする（教職員対象の障害理解の研修会を行う、障害のある児童生徒のクラスで障害啓発授業を行う、障害へのからかいに厳正に対処する、職場における障害の啓発をするなど）。障害のある児童生徒の指導・支援体制の充実（療育機関や通級指導教室、放課後等デイサービス、リハビリテーション施設などの充実など）を行う。

- ・ 個人因子への働きかけでは、障害のある子どもが自身の障害を適切に理解したり、障害があっても前向きに日々の生活を過ごしたり、将来の見通しを立てたりできるような取り組み（例えば、自身の障害に対する理解教育を行う、自身の得意なこと、良いところに気付けるような指導や支援をするなど）をする。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	身体運動心理学		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎1】

「クローズドスキルの効果的な練習法」について詳しく説明してください。

【基礎2】

「運動嫌い」になってしまうメカニズムを学習性無力感の観点から説明してください。

【専門】

体育授業や運動・スポーツを通して「自立的な学習者・選手を育てる」には、どのような手立てが必要となるか？目標設定(種類や志向性)の原理・原則について説明したうえで、目標設定の観点から、考えられる具体的な方法とその理由について詳しく論じてください。

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 身体運動心理学

解答例又は出題意図

出題意図

【基礎問題 1】

「クローズドスキルの効果的な練習法」について詳しく説明してください。

- ・課題テキストの内容を理解し、身体運動心理学の基礎的な知識を身につけているか確認する。
- ・テキストの該当箇所で解説されている代表的な理論や用語を適切に引用し、正確に説明できているか確認する。

【基礎問題 2】

「運動嫌い」になってしまうメカニズムを学習性無力感の観点から説明してください。

- ・課題テキストの内容を理解し、身体運動心理学の基礎的な知識を身につけているか確認する。
- ・テキストの該当箇所で解説されている代表的な理論や用語を適切に引用し、正確に説明できているか確認する。

【応用（専門）問題】

体育授業や運動・スポーツを通して「自立的な学習者・選手を育てる」には、どのような手立てが必要となるか？目標設定（種類や志向性）の原理・原則について説明したうえで、目標設定の観点から、考えられる具体的な方法とその理由について詳しく論じてください。

- ・課題テキストの内容を理解したうえで、大学院進学後に身体運動心理学に関する専門的課題に取り組むうえで求められる知識や論理的思考力を有しているか確認する。
- ・昨今、体育授業や運動・スポーツの学習指導場面では自立性の向上が重要な課題とされる。ここでは、身体運動心理学における目標設定の基礎理論をベースに、適切な目標設定によって自立的な学習者や選手を育てるための具体的方法とその理由について論述する能力や思考・判断力について確認する。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	教育史		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の(1)～(5)から4つの項目を選んで、その用語について説明してください (答案用紙に選択番号を明記すること)。

- (1) 教育勅語 (「教育ニ関スル勅語」)
- (2) 大正自由教育運動
- (3) 旧制高等学校
- (4) 国民学校令
- (5) 墨ぬり教科書

【専門】

問題2 近代日本における公教育制度は、1872(明治5)年の「学制」に始まる。学制序文(「学事奨励ニ関スル被仰出書」)にみる理念・方針を説明した上で、近代学校の特徴について複数の観点から論じてください。

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 教育史

解答例又は出題意図

【基礎】

問題1 以下の(1)～(5)から4つの項目を選んで、その用語について説明してください(答案用紙に選択番号を明記すること)。

- (1) 教育勅語(「教育ニ関スル勅語」)
- (2) 大正自由教育運動
- (3) 旧制高等学校
- (4) 国民学校令
- (5) 墨ぬり教科書

(出題意図)

- ・ 近代以降の日本教育史に関する基本的な用語の理解度を問う。
- ・ 教育理念、教育実践、教育機関、教育改革(戦時下・戦後)に関する事項について、教育史の基礎知識を確認する。

【専門】

問題2 近代日本における公教育制度は、1872(明治5)年の「学制」に始まる。学制序文(「学事奨励ニ関スル被仰出書」)にみる理念・方針を説明した上で、近代学校の特徴について複数の観点から論じてください。

(出題意図)

- ・ 明治維新政府による最初の公教育制度づくりにおいてめざされたもの、近代の学問・教育観などについて理解しているかどうかを問う。
- ・ 学制発布後の近代学校の特徴を、校舎、教授方式、教材・教具、教育内容などの複数の観点から説明できるかどうかを確認する。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	外国人留学生
試験科目	地域経営論		

【基礎】

問題 1 以下のすべての用語の定義や意味について説明しなさい。

- (1) 観光
- (2) 文化的景観
- (3) エコロジカル・デモクラシー
- (4) 観光地ライフサイクル
- (5) 地域主導型観光(コミュニティ・ベースド・ツーリズム)

【専門】

問題 2 まちづくり手法としてのツーリズム(観光)について、以下のキーワードをすべて用いて、これまでの学術的な論点を整理しつつ、観光によるまちづくり手法の特性及び、可能性と課題についてあなたの考えを論じなさい。

キーワード:よそ者、着地型観光、内発的発展、地域資源、地域への愛着

2023年度10月入学 人間社会環境研究科(博士前期課程) 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	外国人留学生
試験科目	地域経営論		

【基礎】

問題 1 以下のすべての用語の定義や意味について説明しなさい。

- (1) 観光
- (2) 文化的景観
- (3) エコロジカル・デモクラシー
- (4) 観光地ライフサイクル
- (5) 地域主導型観光(コミュニティ・ベースド・ツーリズム)

【専門】

問題 2 まちづくり手法としてのツーリズム(観光)について、以下のキーワードをすべて用いて、これまでの学術的な論点を整理しつつ、観光によるまちづくり手法の特性及び、可能性と課題についてあなたの考えを論じなさい。

キーワード:よそ者、着地型観光、内発的発展、地域資源、地域への愛着

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人留学生

科目名 地域経営論

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1 以下のすべての用語の定義や意味について説明しなさい。

- (1) 観光（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp.6-7）
- (2) 文化的景観（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp.46-47）
- (3) エコロジカル・デモクラシー（参考：Randolph T. Hester, Design for Ecological Democracy）
- (4) 観光地ライフサイクル（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp.110-111）
- (5) 地域主導型観光（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp.164-165）

<出題意図>

出題意図については、地域経営及び、観光まちづくりの分野における基礎的な専門用語を確認するものである。

問題 2 まちづくり手法としてのツーリズム（観光）について、以下のキーワードをすべて用いて、これまでの学術的な論点を整理しつつ、観光によるまちづくり手法の特性及び、可能性と課題についてあなたの考えを論じなさい。

キーワード：よそ者、着地型観光、内発的發展、地域資源、地域への愛着

<出題意図>

出題意図については、まちづくり手法としてのツーリズム（観光）の観点から、観光によるまちづくり手法について、学術的に説明することができ、自身の考えを主張の根拠を示しつつ、客観的に述べられているのか問うものである。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10 月入学 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	外国人
試験科目	資源保全コミュニケーション		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題 1 サステイナブルツーリズム(持続可能な観光)とは何ですか。その必須要素も交えて述べてください。

問題 2 資源保全コミュニケーション(インタープリテーション)とは何ですか。その特徴も交えて述べてください。

【専門】

問題 3 サステイナブルツーリズム(持続可能な観光)の課題について整理し、ご自身が考えるその対応策を述べてください。

問題 4 インタープリテーションの効果について整理し、資源保全の観点から、ツーリズムまたはサステイナブルツーリズムとのつながりを論じてください。

2024 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人

科目名 資源保全コミュニケーション

解答例又は出題意図

【基礎】

問題 1 サステナブルツーリズム(持続可能な観光)とは何ですか。その必須要素も交えて述べてください。

持続可能性の要素を踏まえて、ツーリズムというコンテキストで語ることが期待される。

例： 環境（自然・文化環境）、経済、社会（社会文化・システム・構造・環境など）が、その質を損なうことなく次世代に引き継げるように持続可能な形で、活用されるツーリズムのあり方。UNWTO（国連世界観光機関）によると、持続可能な観光（サステナブルツーリズム）は「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義されている。地域の暮らしを豊かにするという目的のために、観光を1つの手段として利用することである。旅行者の満足度も高めながら、地域住民の満足度も高まる「地域のための」ツーリズムとなっていることが重要である。自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つツーリズム形態であるエコツーリズムや、自然資源が豊富な場所で自然体験を主目的としたネイチャーベースツーリズムなども含まれる。また、自然にとどまらず、文化や歴史、近代的資源に焦点を当てたツーリズムもその地域の持続可能性につながるものであれば、サステナブルツーリズム（持続可能な観光）となりうる。

問題 2 資源保全コミュニケーション(インタープリテーション)とは何ですか。その特徴も交えて述べてください。

以下の特徴と定義を理解していることが期待される。

例： インタープリテーションはコミュニケーションの一手法である。楽しい時間を過ごすことを目的に、娯楽となるものを求めている人を対象としたコミュニケーション手法であることが特徴である。また、テーマに沿ったコミュニケーションであること、目的を持って組織や場所のミッション（コアバリュー）に沿っていること、参加者（受け手）が生み出す意味やつながりが結果であることなどの特徴がある。さらに、次のような定義もなされている（日本語訳で記すが英語に沿っていけばよい）。インタープリテーションは、もの、場所、人々、概念について参加者が自分にとっての意味を見つけて自分とのつながりを見出せるように触発することを目的とした、ミッションに基づいたコミュニケーション手法である（Ham, 2013）。単に事実情報をコミュニケーションするというよりも、本物や実物を使ったり、直接体験をしたり、視覚的な方法を用いることで、意味や関係を表すことを目的とした教育的な活動である（Tilden, 1957）。また、TORE という4つの要素・原則（Thematic, organized, relevant, and enjoyable）を持つものでもある。Tildenの6つの原則（*以下に記載）は有名である。

*I. Any interpretation that does not somehow relate what is being displayed or described to something within the personality or experience of the visitor will be sterile.

II. Information, as such, is not interpretation. Interpretation is revelation based on information, but they are entirely different things. However, all interpretation includes information.

III. Interpretation is an art, which combines many arts, whether the materials presented are scientific,

historical, or architectural. Any art is to some degree teachable.

IV. The chief aim of interpretation is not instruction, but provocation.

V. Interpretation should aim to present a whole rather than a part, and must address itself to the whole person rather than any phase.

VI. Interpretation addressed to children (say, up to the age of twelve) should not be a dilution of the presentation to adults, but should follow a fundamentally different approach. To be at its best it will require a separate program.

【専門】

問題3 サステイナブルツーリズム(持続可能な観光)の課題について整理し、ご自身が考えるその対応策を述べてください。

多面にわたる持続可能性について言及しながら、難しさや課題を検討することが期待される。そして、それらに対する対応策をあげることが期待される。

例： 課題として、

持続可能性の保証や可視化、基準といった測定が難しいこと、

それに対する手段としての認証制度(プログラムやラベル)を普及、認識させること、

従来の安価もしくは大人対象のツーリズムよりも効率が悪いと見られて、導入・普及がされづらいこと、

サステイナブルツーリズム(持続可能な観光)の知見を備えた人材が十分ではないこと、

地域への収益還元が可視化されたり認識されたりしづらいこと、または、収益還元が不十分になること、

など導入(採用)や運営が難しく見えることが考えられる。上述以外の課題も多く、その地域の持続可能性につながらないツーリズム形態は、いずれのような形態であっても課題と捉えられるため上記回答に限らない。また、これらの課題に対する対応策は、正答があるわけではないので、論理的であればよい。

問題4 インタープリテーションの効果について整理し、資源保全の観点から、ツーリズムまたはサステイナブルツーリズムとのつながりを論じてください。

下記の3つの効果に言及しながら、インタープリテーションの資源保全への貢献を理解していることが期待される。

例： インタープリテーションがうまくいくと、

1. 参加者が考える・感じるようになる(体験の質が高まる)

2. 参加者の態度や認識が好ましいものになる

3. 参加者が望ましい行動をとる

などの効果があると言われている。すなわち、自然や文化資源についてインタープリテーションすることで、その資源について参加者(受け手)は考えたり感じるようになり、その考えたり感じたりしたことが肯定的なものであれば、その資源に対して肯定的な態度や認識を形成するようになる。このように肯定的な態度や理解、認識を抱いたものに対して、その参加者は肯定的な行動をとるようになる。つまり、自然や文化資源に対して望ましい行動をとることになり、それら資源が損なわれたり消耗されたりする行動が停止または減少するようになる。したがって、それら資源の保護につながる。インタープリテーションにより資源を利用しながらも保護を促すという資源保全につながる。

さらに、以下のような、インタープリテーションとサステイナブルツーリズムのつながりを議論していることが期待される。

例： ツアーガイドやインタープリターによる、旅行者(ビジター)への教育的コミュニケーションは、訪れている地や体験していることについて理解や価値の認識を促す。旅行者体験の質を高め

るためには、旅行者がその地域にしかない本物の文化やストーリーを体験し、そこでしか得られない本物の体験 (authentic experience) などを通して、地域固有の本物さ (authenticity) を認識・体験することが重要である。そのような体験では、資源の価値や意味を伝えられるインタープリテーションが重要な役割を果たすことができる。インタープリテーションを体験した旅行者は、体験したことや訪問地の意味や真価を認識するため、訪問地に対して肯定的な言動をとり、肯定的な影響をもたらすことが考えられる。それらを通して、地域住民もその地に誇りを持つことになる。すなわち、その地域が持続可能になりうるということである。言い換えると、インタープリテーションのない旅行者体験では、価値や意味が十分に認識されづらく、地域や資源への肯定的な影響を期待しづらい。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	教育行政学		

【基礎】

問題1 以下の(1)～(5)から4つの項目を選んで、項目ごとにその意味の説明と、項目に関わる論点を自由に述べてください。(答案用紙に選択番号を明記すること)。

- (1)「教育」と「教育行政」の違い
- (2)地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地方教育行政法)における「総合教育会議」
- (3)県費負担教職員制度
- (4)学校教育法における「教科書検定制度」
- (5)教育行政における「勅令主義」と「法律主義」の違い

【専門】

問題2 公教育制度の制度的原理とされる「機会均等」「義務制」「無償制」「中立性」の意味をそれぞれ説明した上で、「教育を受ける権利」(教育への権利)をめぐる課題について自由に論じ、その改善策を講じなさい。なお、論じる地域は日本国内に限定しない。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人

科目名 教育行政学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1 以下の(1)～(5)から4つの項目を選んで、項目ごとにその意味の説明と、項目に関わる論点を自由に述べてください。(答案用紙に選択番号を明記すること)。

教育行政学(法制度)を研究する上で必須となる基礎的な概念、理解度、論点の理解度を測る。

(1)「教育」と「教育行政」の違い

教育:人間の素質、可能性を引き出し、発展することを目的とした営み、働きかけ

教育行政:教育の趣旨目的が実現するようにするために基礎的条件を整えることを目的とした公権力の営み

論点:教育基本法上の位置付け、「不当な支配」、教育行政による教育への介入、等。

(2)地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地方教育行政法)における「総合教育会議」

:2015年に改正された地方教育行政法によって新たに設けられた、地方公共団体の首長及び教育委員会によって構成される会議。首長の教育行政における役割の明確化、教育行政と首長部局の一体的行政を図ることを目的とする。同会議は首長が招集し、主に教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置、について協議、調整を行う。

論点:教育行政の独立、首長による介入、等。

(3)県費負担教職員制度

:県費負担教職員制度とは、公立義務教育諸学校に勤める教員の給与を都道府県に負担させる制度を意味する。学校教育法第5条において「学校」に勤務する教員の給与は、当該学校の設置者が原則的に負担するとされている。これを設置者経費負担主義という。しかしながら、この原則を公立義務教育諸学校に適用すると、基礎自治体の財政力によって教員給与に差が生じ、結果的に教育水準の維持に困難を来すことになる。そこで、基礎自治体よりも財政力が比較的安定している都道府県に公立義務教育諸学校の教員給与を負担させることが必要となる。

論点:都道府県の人事権、二元行政、義務教育費国庫負担制度、等。

(4)学校教育法における「教科書検定制度」

:小学校、中学校、高等学校等の授業において使用する民間発行者作成の図書を「教科書」として認める否かを文部科学大臣が審査(検定)する制度である。検定に合格した図書は教科書として学校の授業で使用することが認められるが、不合格になった図書の使用は認められない。教科書検定の可否の決定は、申請された図書に関する教科書調査官の調査を踏まえた教科用図書検定調査審議会の審議、答申に基づいて、文部科学大臣が行う。

論点:教科書裁判(検定制度の違憲性)、検定強化、近隣諸国条項、等。

(5) 教育行政における「勅令主義」と「法律主義」の違い

勅令主義: 明治期に発布された大日本帝国憲法には教育に関する直接的な条文は存在せず、教育行政に関する基本的な事項は勅令、すなわち天皇の命令によって規定されるとする考え方のこと。

法律主義: 大日本帝国憲法下における勅令主義が、教育を皇民教育化、軍国主義教育化させたことへの反省から教育行政に関する決定は民意を反映させる法律によって規定されるとする考え方。

論点: 法律主義の限界、教育勅語体制、教育行政への「不当な支配」、等。

【専門】

問題2 公教育制度の制度的原理とされる「機会均等」「義務制」「無償制」「中立性」の意味をそれぞれ説明した上で、「教育を受ける権利」(教育への権利)をめぐる課題について自由に論じ、その改善策を講じなさい。なお、論じる地域は日本国内に限定しない。

出題意図と配点

教育行政学(法制度)を研究する上で必須となる基礎的な用語の理解度と修士課程での研究遂行能力を測る。

- ・公教育制度に内在するとされている原理と教育を受ける権利が一体不離の関係にあることの理解度
- ・全ての人、とくに子どもに保障されるべき教育を受ける権利をめぐる諸課題についての知識の有無、正確性
- ・改善策
- ・論理的思考力、説得力

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	言語障害支援論		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の(1)～(3)の障害の特徴や用語について200字程度で説明して下さい。

(1) 発達障害

(2) 口蓋裂

(3) インクルーシブ教育

問題2 吃音の言語面の問題(吃音の言語症状)と心理面の問題の種類や特徴について説明して下さい。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(2枚のうち 2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	言語障害支援論		

【専門】

問題3 国際生活機能分類では、「健康状態」、「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」、「環境因子」、「個人因子」の各要素から構成される「生活機能モデル」(下図)を掲げています。言語・コミュニケーション障害がある人には、「生活機能モデル」の各要素に、どのような働きかけ(治療、教育、指導、支援、配慮など)をすればよいか、あなたの考えを述べて下さい。

障害者福祉研究会編(2002)ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—, 中央法規, 17ページ, 図1, より引用。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 外国人

科目名 言語障害支援論

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題 1 言語発達や言語障害に関連する基本的事項について理解を問う（3問）。具体的には、以下にそれぞれ挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

（1）発達障害

- ・ 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如多動症（ADHD）などを含む総称であること。
- ・ 生まれつきの脳機能の発達の不具合によって起こると言われていること。
- ・ 言葉の遅れや他者とのコミュニケーションの困難、注意や行動のコントロール、学習などに困難が生じること。
- ・ アセスメントの方法として、本人に対する発達検査や知能検査、特性に関する質問紙や行動の観察などがあり、多角的に実態を把握することが必要であること。
- ・ 特性と環境の不適合から受ける過剰なストレスやトラウマにより、身体症状や精神症状などの二次的な問題を生じることがあること。
- ・ 個別の発達段階や教育的ニーズに応じて指導や支援を工夫する必要があること。
- ・ 環境調整や保護者への支援も視野に入れ、多職種連携による支援が必要であること。

（2）口蓋裂

- ・ 胎生期の組織欠損または癒合不全により、先天的に口蓋に裂（割れ目）が見られること。
- ・ 口唇裂や顎裂を合併することがあること。
- ・ 哺乳や咀嚼・嚥下、言語発達（構音）、歯列、あごや顔面の発育に影響することがあること。
- ・ 滲出性中耳炎にかかりやすいこと。
- ・ 出生時からの小児科、形成外科、耳鼻咽喉科、歯科などの多様な職種によるチーム医療が重要であること。
- ・ 適切な治療を行うことにより、通常の社会生活を送ることが可能であること。
- ・ 状態により不明瞭な発音から生じる問題への対応、からかい・いじめへの対応、自己肯定感の育成、他の子どもへの説明など心理面への対応が必要であること。

（3）インクルーシブ教育

- ・ 人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的で行われること。
- ・ 障害のある人と障害のない人が共に学ぶ仕組みであること。

- ・ 障害のある人が、一般的な教育制度から排除されないこと。
- ・ 自己の生活する地域において、初等中等教育の機会が与えられること。
- ・ 個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが必要であること。

問題2 吃音の言語面の問題（吃音の言語症状）と心理面の問題に関する理解を問う。具体的には、以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

- ・ 吃音の言語面の問題（吃音の言語症状）には、語音の繰り返し（連発）、引き伸ばし（伸発）、阻止（つまり、ブロック、難発）があること。
- ・ 吃音の言語症状の進展に伴い、発声発語器官や体全体の緊張が高まり、力の入らない楽な繰り返しや引き伸ばしから、力の入った苦しい阻止へと変化すること。
- ・ 吃音の言語症状の進展に伴い随伴運動（吃音の言語症状に随伴して、顔を歪める、手や足を動かすなど発話に関係ない運動が生じる）が出現する場合があること。
- ・ 吃音の心理面の問題には、発話に対する不全感や Loss of Control の感覚、吃音の話し方への羞恥心や罪悪感、予期不安、吃音になりそうな音や語、場面の回避、劣等感や自己効力感の低下などがあること。
- ・ 心理面の問題が大きくなると、不登校や引きこもりなどの問題に発展する場合があること。
- ・ 吃音への無理解やからかいが、吃音の心理面の問題を増悪させる大きな要因になること。

【専門】

問題3 現在、教育・医療・福祉の各領域で広く利用されている国際生活機能分類についての理解や考えを問う。以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

（※ これら以外の適切な記載についても、加点することがある）

- ・ 心身機能・身体機能への働きかけでは、障害のある心身機能や身体構造の回復・改善、あるいは、相対的に高い機能・構造による代償などを目指した治療・指導・支援を行う（例えば、吃音の言語症状の改善を目指したスピーチセラピー、視覚的情報で聴覚的情報の不足を補うなど）。
- ・ 活動への働きかけでは、生活・学習・仕事における基礎的技術の向上などを旨とした治療・指導・支援を行う（例えば、机上学習のスキルを向上させるための指導や、音読指導、読み書きの指導など）。
- ・ 参加への働きかけでは、心身機能・身体構造や活動の制約があっても、学校生活・授業に円滑に参加できるような配慮や支援を行う（例えば、吃音や読み書き障害で音読が苦手な児童生徒に配慮して音読を複数人数での斉読で行う、言語理解や注意の問題のため一斉指示では理解できない人に配慮して指示内容を板書やプリントでも示すなど）。
- ・ 環境因子への働きかけでは、障害のある児童生徒への誤解や偏見をなくすための取り組みをする（教職員対象の障害理解の研修会を行う、障害のある児童生徒のクラスで障害啓発授業を行う、障害へのからかいに厳正に対処する、職場における障害の啓発をするなど）。障害のある児童生徒の指導・支援体制の充実（療育機関や通級指導教室、放課後等デイサービス、リハビリテーション施設などの充実など）を行う。
- ・ 個人因子への働きかけでは、障害のある子どもが自身の障害を適切に理解したり、障害があつて

も前向きに日々の生活を過ごしたり、将来の見通しを立てたりできるような取り組み（例えば、自身の障害に対する理解教育を行う、自身の得意なこと、良いところに気付けるような指導や支援をするなど）をする。